

いろいろなタイプの街道がある。

五街道・脇街道など有名な主要街道や、伊勢街道などの参詣道や、銅山・銀山などの鉱山道など目的の違った街道が多数ある。

五街道などは幕府直轄の街道だから街道絵図が残っていたり、街道を歩けば宿場がありましたよとすぐ判る案内標識もある。本陣・脇本陣の場所までしっかり判る。五街道以外でも、当地の藩のよく使う道なら宿場も問屋もありしっかり記録は残っている。

参詣道は多くの人を通ったので、街道には道標や参詣道ならではの石灯籠・常夜灯などあり歩いていても楽しい。「こんな遠くにまであるの」と遠くにある目的地の灯籠などを見つけるとこの道を多くの人々が参詣したのを実感する。これらの参詣道は地元の人でも自慢の道で宿場などの庶民的な記録が多く残っている。

鉱山道などは特殊なケースだろうが、多くは幕府直轄でもあるので役人の公用道になり、地域の諸藩も気を使い道も整備され今に記録に、記憶に残る。

「全国の街道地図」は、各府県にある多くの街道を何本か選択して調査した報告書の街道を集め、報告書のない府県などは、地方機関の資料などで補充した。選択した街道の詳細は誰が調べ、どんな資料から収集したかまで記録しているが、どの街道をどう選んだかという事はない。

だから府県によって選択された街道がバラエティーに富んでいる。

沖縄では沖縄本島はもちろん、小さな海に浮かぶ島の道が多数ある。鹿児島県では各地町村に任せただろうかと思うほど網目の街道が選ばれている。

参詣道のある府県では急に街道の数が多くなる。伊勢神宮のある三重県、金毘羅山のある香川県、赤城山・榛名山・妙義山の3山参詣道を持つ群馬県、宇佐神宮のある大分など多数ある。

各府県共通しているのが、お城のある町からの街道を多く選んでいる。岩手県では城下町の盛岡市から見事に多数の街道が出ている。県によっては昔の「お国」が複数あったり、お城も複数あるので放射状の街道が何個かある。

主要街道も参詣道も鉱山道も種類が違い、地方が選んだ街道も多種様々だが、街道に関して記録が残った街道である。記録のない街道はもつともつとある。